

5) タバココナジラミの卵に対する気門封鎖剤の殺虫効果

気門封鎖剤は主にコナジラミ類の成虫を対照として散布されているが、一部の薬剤は卵に対しても一定の効果があることが知られている。そこで、数種の気門封鎖剤を用いて効果の比較を行った。

(1) 材料および方法

①供試虫

2013年11月に足利市のトマトで採集されたタバココナジラミバイオタイプQの1個体群を供試した。キャベツ（品種：おきな）およびチンゲンサイ（品種：シャオパオ）を用いて25℃16L8D条件下で増殖した。

②供試薬剤

供試薬剤は、蒸留水を用いて表1の濃度に調整して使用した。対照区は蒸留水を用いた。

③試験方法

ネット容器（45cm×45cm×45cm）内に初生葉が展開したインゲン（品種：長鶏菜豆）を入れ、インゲン1株あたり50頭となるようにタバココナジラミ成虫（2013年11月足利個体群）を接種し、25℃条件下で24時間産卵させた。その後、成虫は除去し、卵を計数した後に、初生葉1枚を1区として葉液に10秒浸漬してから風乾・水挿しにした。25℃16L8D条件で10日間管理し、実体顕微鏡下で定着した幼虫数を計数して生存率およびAbbott(1925)の補正式から補正死亡率を求めた。

表1 タバココナジラミの卵に対する主要な気門封鎖剤の殺虫効果

商品名	薬剤名	希釈倍率 (倍)	補正死亡率(%)
サンクリスタル乳剤	脂肪酸グリセリド乳剤	300	72.3
サフオイル乳剤	調合油乳剤	300	84.0
オレート液剤	オレイン酸ナトリウム液剤	100	0.0
ムシラップ	ソルビタン脂肪酸エステル乳剤	500	2.0
エコピタ液剤	還元澱粉糖化物液剤	100	4.1
粘着くん液剤	デンブン液剤	100	0.0
対照区(生存率)			(98.4)

※ 補正死亡率 (%) = {(対照区生存率 - 処理区生存率) / 対照区生存率} × 100

(2) 結果

- ・殺卵効果はサンクリスタル、サフオイルでやや高かった。
- ・オレート、ムシラップ、エコピタ、粘着くんでは殺卵効果は認められなかった。